日本丸 酒で仕留めた 槍ならば
太兵衛に如水 許しあれかし

令和六年五月三日

大中臣正比呂

「フカ」とあだ名されていた酒豪の母里太兵衛は、朝鮮の戦役から戻った秀吉の家臣、福島正則のもとに、黒田長政の命で伏見城へ使いに発った。

太兵衛は長政から、使者として禁酒を厳命されていたのだが、福島の酒の勧めと、「思いの品をやる」という挑発に乗って大盃を飲み干した。その戦利品が「日本丸」という名高い槍である。博多どんたくでも、剛髪の厳つい男性が扮して練り歩く。

「酒は飲め〳〵飲むならば、日の本一の此の槍を・・・」と、歌にも歴史にも残ったのだから、長政も水に流して許したのだろう。